

ひょうたん島川の駅ネットワーク構想

～誰からも親しまれる持続可能な川の駅ネットワークの実現に向けて～

(素案)

目次

1	ひょうたん島川の駅ネットワーク構想	1
	(1) ひょうたん島川の駅ネットワーク構想(趣旨)	
	(2) 構想見直し	
2	ひょうたん島川の駅ネットワーク	2
	(1) 川の駅ネットワーク	
	(2) 川の駅・停留所	
3	これまでの取組	7
	(1) 官(徳島市)の取組	
	(2) 民の取組	
4	将来像	8
5	課題	9
	(1) 認知度や情報が不足している	
	(2) 利用に課題(障害)がある	
	(3) 将来を見据えた川の駅ネットワークを検討する必要性が高まっている	
6	今後の方向性	10
	(1) テーマ	
	(2) 取組方針	
7	構想の実現に向けて	12
	(1) 構想の共有	
	(2) 実効性のある推進体制の確立	
	(3) 積極的な連携	

1 ひょうたん島川の駅ネットワーク構想

(1) ひょうたん島川の駅ネットワーク構想(趣旨)

徳島市は、四国最大の河川である吉野川をはじめ、大小あわせて134本もの河川が流れており、江戸時代には豊かな水資源を背景に藍の生産により全国有数の商業都市となるなど、水とともに発展してきた「水都」です。

徳島市中心市街地の新町川と助任川に囲まれたエリアは、上空から見るとひょうたんの形に見えるため、市民等から「ひょうたん島」の愛称で親しまれ、「水都とくしま」の象徴になっています。

「ひょうたん島川の駅ネットワーク(以下「川の駅ネットワーク」といいます。)」は、この「ひょうたん島」をとりまく1周約6kmの川の各所に船が着き、人が乗り降りできる栈橋などがある「川の駅や停留所」を整備し、ネットワーク化を図るものです。(川の駅ネットワークの詳細は、2頁参照)

「ひょうたん島川の駅ネットワーク構想(以下「構想」といいます。)」は、川の駅ネットワークを活用(官民による中心市街地への人々の誘導や移動手段などの取組)することで、新たな人の流れやにぎわいの創出など、まちの活性化につなげることを目指したものです。

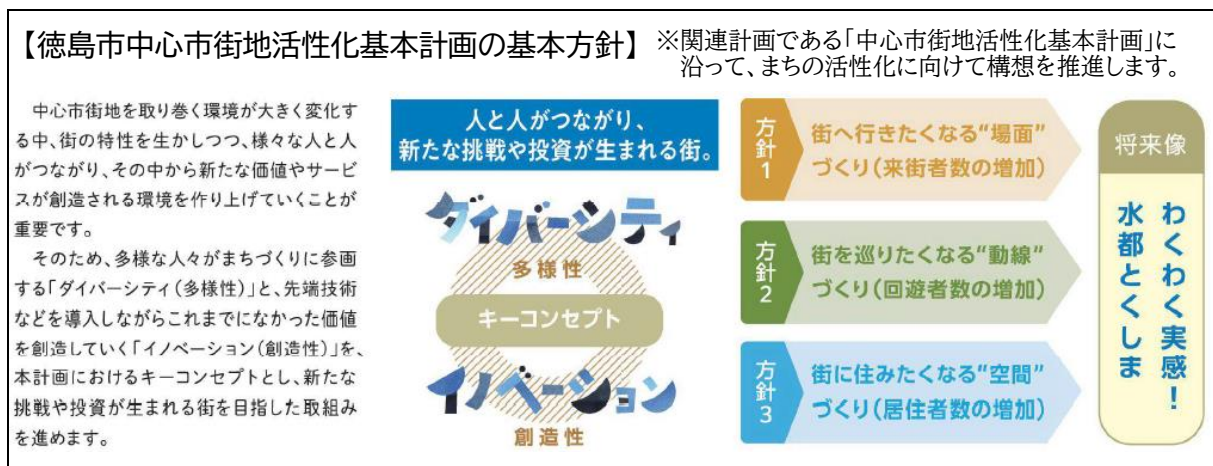
(2) 構想見直し

当初の構想は、平成26年6月に策定されましたが、新町橋河畔に整備予定の「拠点となる川の駅」について検討する必要性が生まれたことを背景に、平成29年3月に見直しを行っています。

しかし、平成29年3月の見直し以降に社会情勢の変化が生じていることや、今後、期待される役割が大きくなっていることを背景に、構想の見直しを行いました。

- ・川の駅ネットワークを取り巻く環境が変化(中心市街地の活力低下や人々の生活様式の変化等)
- ・上位計画・関連計画(徳島市中心市街地活性化基本計画等)の策定、これらとの整合の必要性
- ・川の駅ネットワークの一層の活性化への期待(活動エリアの拡大、新町橋河畔栈橋整備等)

構想見直しに当たっては、「新たな時代に相応しい構想」、「整備から活用へ」、「アメーゼンメント性」、「持続可能性」を基本的な考え方とし、これらを踏まえて、川の駅ネットワークが、一層まちの活性化に資するものとなるような構想へと発展することを目指しました。



2 ひょうたん島川の駅ネットワーク

(1) 川の駅ネットワーク

川の駅ネットワークは、「川の駅や停留所※」を船が周遊することで結ぶものであり、「ひょうたん島エリア」を中心に始まりました。近年は、「ひょうたん島エリア」から「ベイエリア」や「北部エリア」などへと運航範囲が拡大しています。

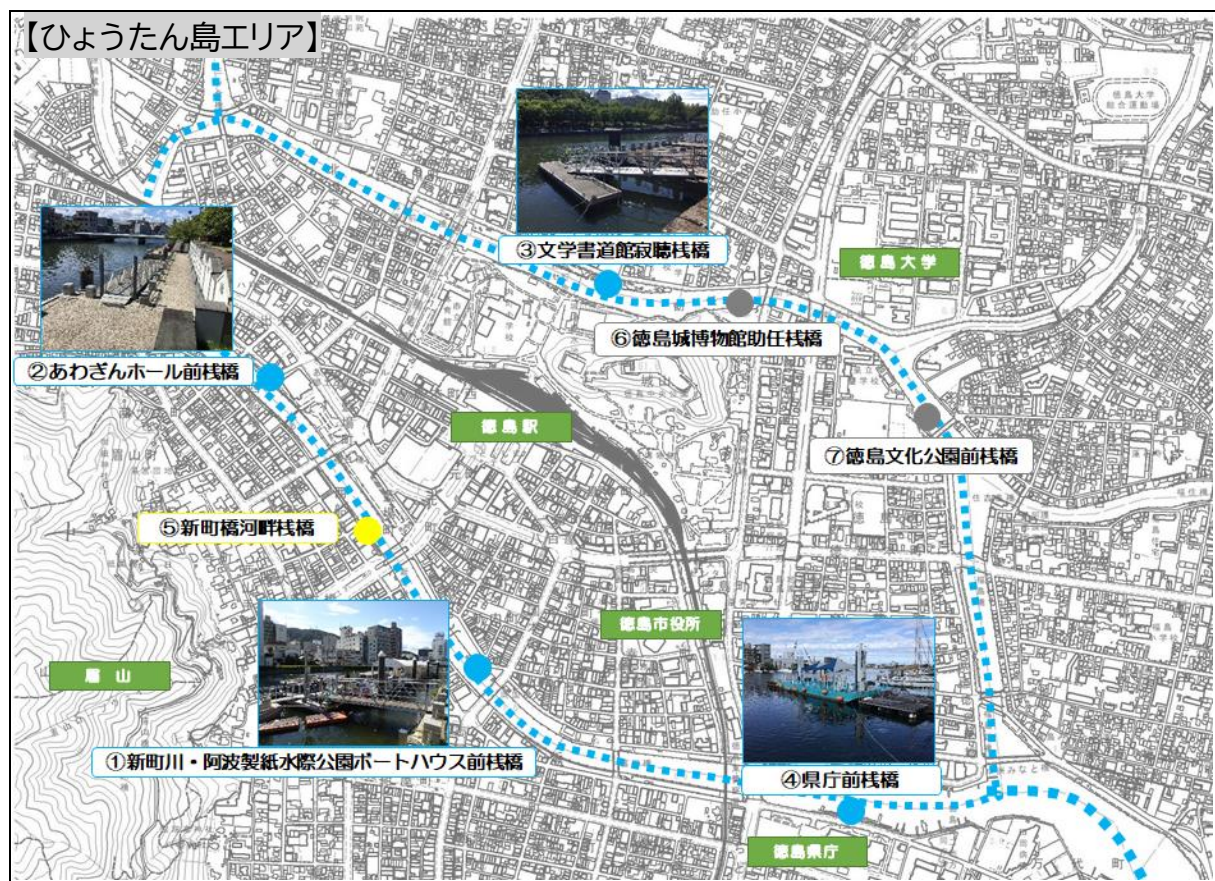
川の駅

栈橋以外の機能を有する拠点性の高い乗り場を指します。

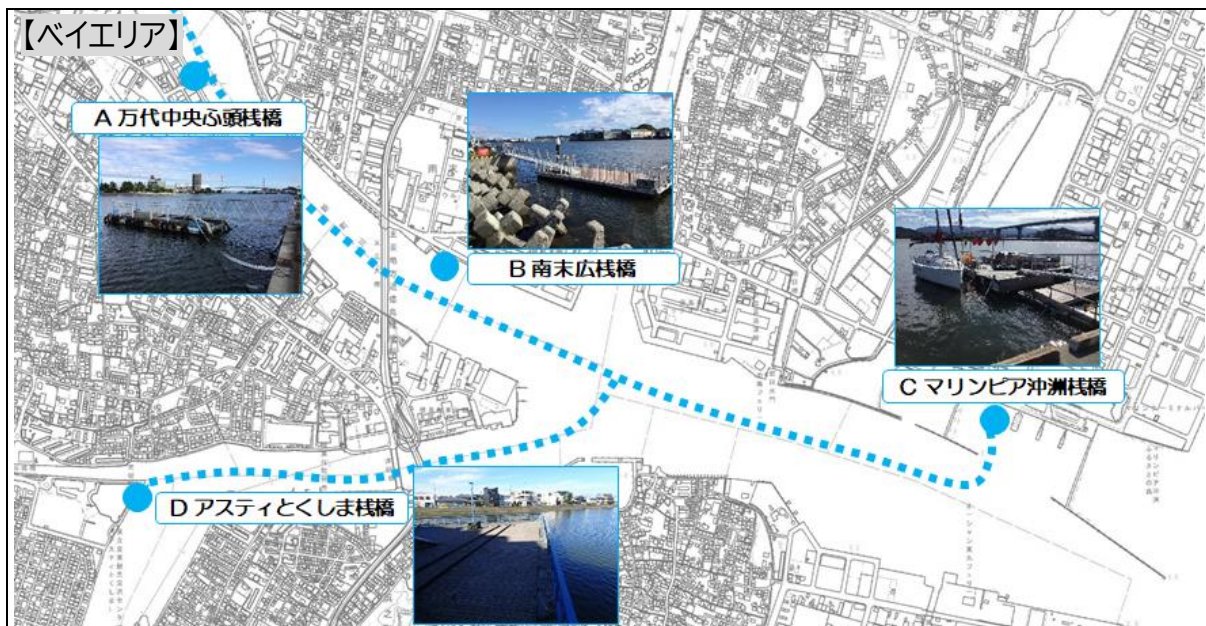
(例:新町川・阿波製紙水際公園ボートハウス前栈橋、万代中央ふ頭栈橋、新町橋河畔栈橋(整備予定))

川の停留所

栈橋を主な機能とする乗り場を指します。



- ①新町川・阿波製紙水際公園ボートハウス前栈橋:P4
- ②あわぎんホール前栈橋:P4
- ③文学書道館寂聴栈橋:P4
- ④県庁前栈橋:P4
- ⑤新町橋河畔栈橋(整備予定):P5
- ⑥徳島城博物館助任栈橋(未整備):P5
- ⑦徳島文化公園前栈橋(未整備):P5



A 万代中央ふ頭棧橋:P6
B 南末広棧橋:P6

C マリニピア沖洲棧橋:P6
D アスティとくしま棧橋:P6

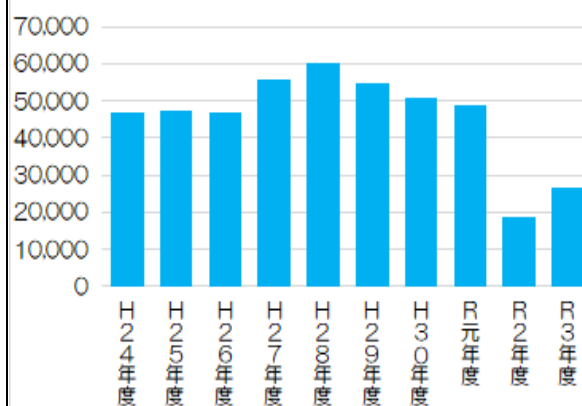


※川の駅や停留所、運航ルートは、民(団体・地元等)のニーズ等を踏まえつつ、環境が整った場合は、今後も必要に応じて、柔軟に見直しを行いながら川の駅ネットワークを形成することとします。



仕様:全長約 7.5m×幅約 2.7m×高さ約 1.9m
定員:14 名(うち乗客は 12 名)
乗船制限 :車いす利用者、自転車も乗船可能
運営団体:NPO法人新町川を守る会

(人/年) 周遊船の乗船者数



(2) 川の駅・停留所

【①新町川・阿波製紙水際公園ボートハウス前棧橋】

周遊船の離発着場所として最大規模の棧橋です。

後背地にある新町川水際公園や対岸にあるボードウォークとあわせ、市民の憩いの場を形成しており、ひょうたん島のシンボリックな存在になっています。

周辺では、マチアソビや徳島マルシェなどイベントが頻繁に開催されているほか、SUPやカヤックなど水上スポーツも楽しめ、多くの人々が集っています。

夜間には、LED アートの橋が並んでおり水と光の空間が広がり、美しい景観を楽しむこともでき、今後も川の駅の拠点の一つとして活用されていくことが期待されます。



【②あわぎんホール前棧橋】

阿波藍の繁栄期には、川の両岸に大きな藍蔵が軒を連ねていたエリアに整備されている棧橋です。

藍蔵を模した護岸や快適な遊歩道、かつての藍蔵の白壁と青石による風情ある景色を LED で表現した春日橋が整備されています。周辺には、郷土文化振興拠点となるあわぎんホールや、阿波おどりなどの多彩なイベントが開催される藍場浜公園があります。



【③文学書道館寂聴棧橋】

地元住民が日常的に利用している助任川河岸緑地内に整備されている棧橋です。

向かい側にある徳島中央公園の蜂須賀桜や木々の新緑や紅葉など四季折々の景色が見られます。また、周辺の文学書道館では、徳島ゆかりの文学・書道の展示や講座の開催など、文化活動の場が提供されており、文化と自然が融合した癒しの空間が楽しめます。



【④県庁前棧橋】

徳島県庁前の「ケンチョピア」とよばれるヨットハーバーに位置する棧橋です。

県庁舎のレンガ色、ヨットの白、眉山の緑のコントラストが美しく、四国の水辺八十八か所、徳島市民遺産に選定されています。周辺には、ボードウォークや青石が敷かれた石の階段などで整備された遊歩道、国の重要文化財に指定されている三河家住宅があり、景観を楽しみながら散策できます。なお、この棧橋は NPO 法人の協力により整備されたものです。



【⑤新町橋河畔栈橋(整備予定)】

新町西地区市街地再開発事業のイメージ図



新町西地区市街地再開発事業において計画している栈橋であり、JR 徳島駅と眉山を結ぶシンボルゾーン付近にホテルとともに、新町川に沿って整備することを予定しています。

周辺には、阿波おどり会館や眉山ロープウェイといった観光施設があるほか、眉山や多くの寺院が集まる寺町界限など徳島の自然・文化が感じられる街並みが広がり、街歩きを楽しめます。

また、この再開発事業では、新町橋通りに面して広場と商業施設も整備される予定であり、これらとの一体的な憩いとにぎわいの場が創出されることにより、立地の強みを生かして、ホテル客をはじめとした県外からの多くの来訪者に利用され、今後の川の駅の拠点の1つとして発展していくことが期待されます。

今後、整備について検討することとしている栈橋

【⑥徳島城博物館助任栈橋(未整備)】

場所：阿波の中心地であった徳島藩25万石の徳島城跡に広がる徳島中央公園内
(過去の検討イメージ)



【⑦徳島文化公園前栈橋(未整備)】

場所：広大な旧動物園跡地の隣接地
(過去の検討イメージ)



【A 万代中央ふ頭棧橋】

かつては徳島を代表する物流拠点の港として栄えた万代中央ふ頭倉庫群に位置している棧橋です。

万代中央ふ頭倉庫群19棟を中心とした岸壁、水域を含むエリアは現在、既存倉庫群を利用した飲食店や小売店等が立ち並び、ひとつのまちを形成しています。

NPO法人や倉庫街の店等が行うイベントも人気を集めており、他の川の駅では見ることができない倉庫街と港の雰囲気を楽しむことができます。



【B 南末広棧橋】

日本における斜張橋の先駆的な存在であった末広大橋を望む場所に位置している棧橋です。

周辺には大型ショッピングモールがあり、若者や家族連れで賑わっています。また、このエリアは徳島みなと公園や多くの飲食店があり、港の雰囲気とレジャーを楽しめます。水上タクシーやベイエリアへの定期運航が始まり、今後、利用者の増加が見込まれています。

なお、この棧橋は民間企業より整備され寄贈されたものです。



【C マリンピア沖洲棧橋】

徳島小松島港に浮かぶ人口島であるマリンピア沖洲に位置し、阿波の幸を一年楽しめる食のテーマパーク「徳島新鮮なっとく市」の施設内にある棧橋です。

ここでは、レストランやBBQだけでなく、釣り堀やシーサイドカヤックなどのレジャーも体験できるほか、周辺にはフェリー乗り場や大型有料駐車場があり川の駅へのアクセスが容易であることから、今後、利用者の増加が期待されています。

なお、この棧橋は民間企業とNPO法人の協力により整備されたものです。



【D アスティとくしま棧橋】

徳島の観光コンベンションセンターである徳島県立産業観光交流センター敷地内に位置する棧橋です。

同センターは、「アスティとくしま」として親しまれています。最大収容人員5,000人の大型多目的ホールがあり、大規模会議、コンサートやスポーツ大会などが開催されていることから、今後もイベント時等において、多くの方に利用されることが期待されます。



3 これまでの取組

(1) 官(徳島市)の取組

○ひょうたん島周辺整備

ひょうたん島周辺整備は、昭和61年着手の護岸工事に始まり、県等と連携して20年以上にわたり親水公園や遊歩道の整備等に取り組んできました。

平成20年頃からは、LED景観整備に取り組み始め、これまでに整備してきた水の魅力に、光の要素を新たに加えることで、他の都市にはない魅力を発信してきました。



○構想策定後の取組

構想策定時に、新たな候補地に挙げていた「南末広栈橋」「マリンピア沖洲栈橋」などにおいて、民間の協力のもと、栈橋の整備が進み、川の駅ネットワークの範囲が拡大しました。

また、構想実現を目指して、ひょうたん島周辺で活動する民間団体等で構成される「ひょうたん島川の駅連絡会」を設置し、川の駅ネットワークの活性化に取り組んできました。

○近年の取組

近年は、川の駅ネットワークの利用拡大を図る取組を進めています。

例えば、令和元年度には、徳島大学の学生たちと「川や船、栈橋を使ったにぎわいづくり」を検討し、「川の駅図書館」が実現しました。また、令和2年度に両国とベイエリア間を結ぶ新たな運航ルートの試験運航、令和3年度にイベントとの連携などによる実証実験を実施し、令和4年度からの定期運航につなげました。

(2) 民の取組

○水辺の再生

川の駅ネットワークの舞台である新町川は、かつてはBODが30mg/lを超えるなど水質汚濁が進んでいましたが、NPO法人新町川を守る会をはじめ地元住民(市民)が中心となり、熱心に清掃活動に取り組んできた結果、水質が大きく改善しました。今では、きれいになった新町川や助任川を走る周遊船が運航されるなど、住民主体で水辺の再生が成し遂げられました。

○にぎわいづくり

現在では、川の駅周辺(新町川沿いの公園やボードウォーク等)において、民間団体が中心となり、パラソルショップを並べ地元農産品の販売等を行う「とくしまマルシェ」、県内学生による日曜日「SunSunマーケット」など、地域に根付いた多様なイベントが定期的で開催され、中心市街地の活性化に大きな役割を果たしています。

また、旅行会社による周遊船の旅行商品化や船に乗ったサンタクロースが各川の駅でプレゼントを配る「川の駅にサンタがやってくる」の開催など、川の駅を活用したにぎわいづくりも進んでいます。



4 将来像

○ 市民に親しまれる川の駅ネットワーク

「川の駅ネットワーク」は、「水都とくしま」の歴史の中で、本市の地域資源である「ひょうたん島」を生かし、官民が協力して発展させてきたものであり、地域の宝であると言えます。

この地域の宝を今後もつないでいくため、市民の誰もが「川の駅ネットワーク」を知り、体験することにより、生活に根づき、愛着を感じられる「川の駅ネットワーク」を目指します。

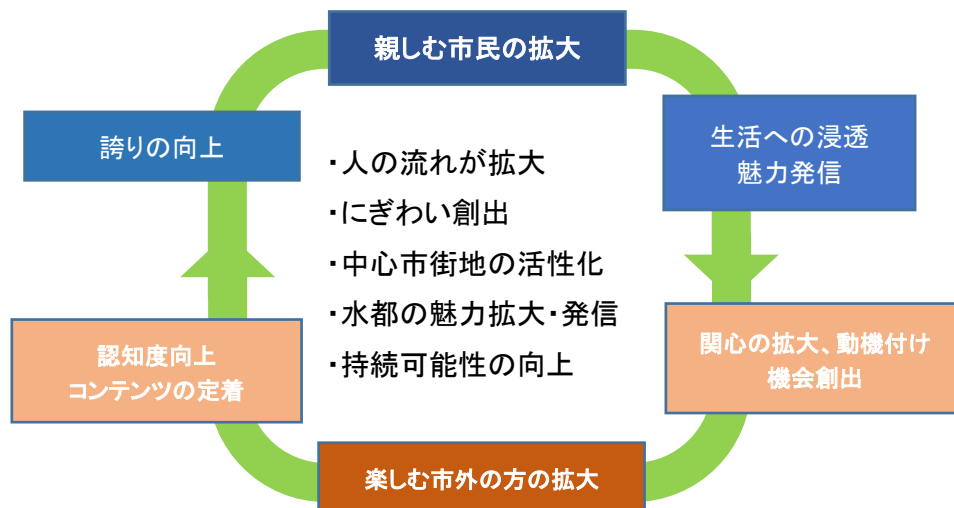
○ 市外の方(来訪者、観光客など)に親しまれる川の駅ネットワーク

「川の駅ネットワーク(ひょうたん島クルーズ)」は、様々な調査で、認知度に比べて魅力度が高い結果が見られ、体験した方の多くがとても満足し、魅力を感じるコンテンツであると言えます。

まちの活性化に向けて、「水都とくしま」の魅力を発信し、市外の方が興味や関心を持ち、実際に体験し楽しむ人が増えることで、さらに魅力が拡大していく「川の駅ネットワーク」を目指します。

「川の駅ネットワーク」を親しむ市民が増え魅力が市外に伝わることで楽しむ市外の方が増える、「川の駅ネットワーク」を楽しむ市外の方が増え市民が誇りを感じることで親しむ市民が増える、こういった好循環を創出することで、

『「川の駅ネットワーク」が人の流れやにぎわいを生み出す活力のあるまち』を目指します。



5 課題

(1) 認知度や情報が不足している

- ①川の駅ネットワークの市外での認知度が、魅力があるにも関わらず高くありません。また、市民の間でも、川の駅ネットワークを知らないという人が少なくありません。
- ②川の駅ネットワークを知っていても、きっかけがない(情報に接触する機会や乗船する機会が少ない)などの理由により、興味や関心を持つまでに至らない場合もあります。
- ③川の駅ネットワークに興味や関心があっても、調べても情報が見つけれない、乗船方法が分からない、川の駅や停留所がどこにあるか分かりにくいといったケースも見られます。

(2) 利用に課題(障害)がある

- ①周遊船に乗船(ひょうたん島クルーズ)するのは楽しいが、各川の駅や停留所に何があるか分からない、下船後、何をしたいかが分からないなど、川の駅や停留所その周辺の魅力を高めたり、魅力を伝えることが必要と感じている人が少なからず見られます。
- ②利用したいが川の駅・停留所に行くための交通手段に困るケースや、目的地(行きたい川の駅・停留所)はあるが帰る手段がないことを心配しているケースが見られます。
- ③川の駅ネットワークの性質上、利用は季節や天候の影響を受けることが避けられません。

(3) 将来を見据えた川の駅ネットワークを検討する必要が高まっている

- ①川の駅ネットワーク(周遊船)の利用者数は、平成 28 年度をピークに近年は減少傾向にあり、特に令和2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、利用者数が激減しています。将来にわたり安定的に運用するため、利用者の確保が必要です。
- ②川の駅ネットワークの将来的な発展に向けて、周遊船を定期的に運航する体制(事業の運営体制)と、川の駅ネットワークを活発化させるための推進体制のいずれも大切です。
- ③今後の川の駅ネットワークについては、現代社会に必要な SDGs の理念を踏まえ、環境に配慮した運用など持続可能性を考慮していくことが重要になってきています。

6 今後の方向性

将来像の実現に向けた方向性として、「5 課題」を踏まえて、次のとおり、テーマと取組方針を設定することとし、今後は、これらに沿った具体的な事業や取組を、官民が協力して、検討・実施していくこととします。

(1) テーマ

- | |
|------------------------|
| ① 誰もが知っている川の駅ネットワークづくり |
| ② 誰もが楽しめる川の駅ネットワークづくり |
| ③ いつまでも続く川の駅ネットワークづくり |

(2) 取組方針

情報発信の充実・強化	テーマ:①	短期
<ul style="list-style-type: none"> ・探しやすく分かりやすい情報発信(情報案内の整理) ・認知度を高める情報発信(情報媒体の工夫や外部(異業種)の団体等との連携) ・戦略的な情報発信(ターゲットや時機を踏まえた情報提供) 		
船着場の周知等	テーマ:①、③	短中期
<ul style="list-style-type: none"> ・船着場の可視化(看板・サインの設置、マップの作成) ・親しみやすい船着場の検討(呼称など)、船着場の魅力づくり(特性を生かした取組など) ・目に止まる船着場づくり(シンボルの統一、まち歩きを意識した環境づくり) 		
新たな楽しみ方の創出	テーマ:②	長期
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なニーズに応えられる周遊船の検討(アトラクション、静かな楽しみ方(屋形船)など) ・乗船時の楽しさが増す方策の検討(景観の活用やガイドの充実(電子案内)) ・楽しみ方や活用の幅の拡大(自転車と一緒に乗船など) 		
利用者への楽しみ方の提案	テーマ:①、②	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・川の駅やその周辺で開催されるイベントとの連携(情報発信、企画(行事)) ・各駅や周辺施設の情報提供、下船後の楽しみ方や活用方法(例)の提案 (ホームページや SNS での案内やマップ作成等による観光資源等の提案) 		
各駅をつなぐことによるネットワークの活性化	テーマ:②、③	長期
<ul style="list-style-type: none"> ・船だけでなく、徒歩や自転車で周遊(移動)できる環境を整備 (ひょうたん島遊歩道の整備により川の駅ネットワークと「歩いて楽しめるまちづくり」の連携) (コミュニティサイクルの検討・実用化により下船後の楽しみ方の創出) 		

子どもの利用拡大(学校連携)	テーマ:①、③	短中期
<ul style="list-style-type: none"> ・学校向けの情報発信(事業案内、学校行事で活用されている事例や魅力の周知) ・子どもが利用する機会の創出(校長会で発信など学校行事で活用してもらえる検討) ・行事を通じた川の駅ネットワークの浸透(学校行事、河川清掃活動) 		

環境分野との連携	テーマ:③	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・周遊船の電動化(脱炭素への貢献、持続可能な周遊船の検討) ・環境活動を通じた川や周遊船に親しむ機会の創出(河川清掃活動) 		

利用者の確保及び拡大	テーマ:①、②、③	短中期
<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい環境づくり(時刻表の整備、情報発信・周知の充実) ・利便性の向上(デジタル技術の導入(電子決済・利用支援に係るシステム化)) ・利用機会の拡大(各種事業等との連携などきっかけづくり) 		

推進体制の充実	テーマ:③	長期
<ul style="list-style-type: none"> ・運営体制の充実(デジタル化による効率化など) ・川の駅ネットワークの賛同者や参画者の拡大 		

官民連携の充実	テーマ:①、②、③	中長期
<ul style="list-style-type: none"> ・観光分野での活用(観光商品化など) ・川の駅周辺の活性化への協力 		

7 構想の実現に向けて

(1) 構想の共有

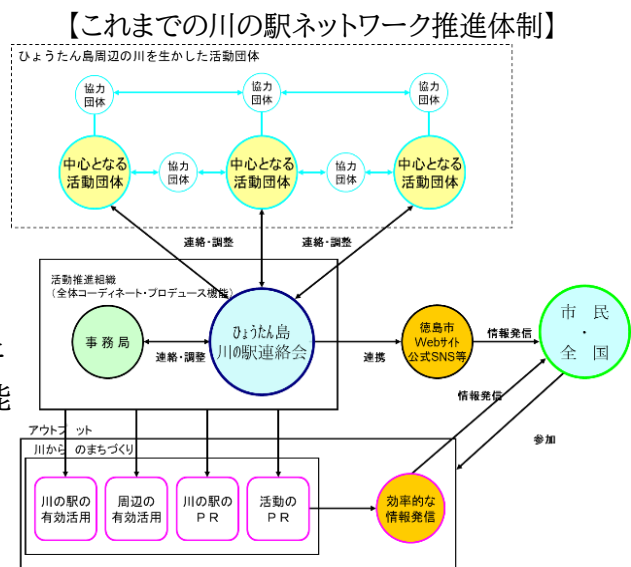
川の駅ネットワークは、官民が協力して、形成・推進してきた歴史があり、今後も川の駅ネットワークの発展のためには、官民が一体となって取り組む必要があることは言うまでもありません。

そのため、川の駅ネットワークを活用したまちづくりを進めるに当たり、本構想についても、市民や民間団体に一層知っていただくことが重要であると考えられるため、構想の共有に努めていくこととします。

(2) 実効性のある推進体制の確立

これまでの構想においては、「ひょうたん島川の駅連絡会」(7頁及び右図参照)のもと推進してきたところであり、同連絡会は川の駅ネットワークの活性化に大きな役割を果たしてきました。

同連絡会は、これからも中心的役割を果たしていくことが期待されますが、真に持続可能なものとするためには、民の力を一層導入し、自走できる体制(体制の充実、事務局機能など)を目指していくことが求められています。



本構想を策定しただけで終わらせず、実現性の高いものとするためには、実効性のある構想の推進体制を確立する必要があります。そのため、周遊船の運営団体であるNPO法人新町川を守る会や同連絡会との連携はもとより、今後は、観光団体やまちづくり団体など様々な団体とともに、一層、官民一体となった川の駅ネットワークの活発化を図っていくことが重要です。

(3) 積極的な連携

川の駅ネットワークを、今後、一層発展させていくためには、これまで取り組んでいなかった(又はあまりしていなかった)連携を考えることが効果的です。

例えば、地域間連携(イベント時などに徳島市発の周遊船が市外の市町に行く観光商品など)や、分野横断的な連携(まちづくり・観光・産業など様々な効果が期待できる団体との連携など)、さらには、これまでも取り組んできた官民連携の拡大など、様々な連携を推し進めることでイノベーションが生まれ、構想実現につながっていくことが期待できます。

